

## 第6回高速炉開発会議における意見

2022年12月22日

電気事業連合会会長 池辺和弘

エネルギー資源に乏しい我が国においては、「S+3E」の観点が非常に重要であり、電力の安定供給の確保や電源の脱炭素化に資する原子力については、不断の安全性向上を大前提として、将来にわたり持続的に活用することが不可欠と考えております。

足元の早期再稼働や再稼働したプラントの最大限の有効活用に向けて着実に取組んで参りたいと考えておりますが、原子力を持続的に活用するためには、原子燃料サイクルの確立も不可欠です。現在、六ヶ所再処理工場の早期竣工に向けて、電気事業連合会に「サイクル推進タスクフォース」を設置し、オールジャパン体制で支援していることころであり、また、利用目的のないプルトニウムを持たないという国の政策の下、プルトニウムを確実に消費できるよう、プルサーマルの推進に最大限取り組んでいることころです。

そのような中であって、資源の有効活用や高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度低減が可能な高速炉は、原子燃料サイクルを推進する上で重要な炉型と認識しており、長期的な視点に立ち、国の主導の下、一貫性を持って開発を進めることが重要と考えております。

今回見直しを頂いた戦略ロードマップは、技術的な開発工程をはじめ、開発体制や事業環境の整備といった、開発に必要な条件の整備がマイルストーンとして設定されていると認識しております。

今後の技術開発の進捗や国際協力の状況等に応じて、適切な工程への見直しを適宜図りながら、開発や環境整備が着実に進められるとともに、国内の人材や技術基盤も維持、発展していくことを期待しております。

私ども事業者としても、引き続き、軽水炉の運用によって培ってきた経験・ノウハウを活かし、開発に協力して参りたいと考えております。

以上